

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 一般国道49号 <small>たいら</small> 平バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 東北地方整備局			
起終点 自：福島県いわき市常磐上矢田町 至：福島県いわき市好間町北好間	延長 7.7 km				
事業概要 一般国道49号は福島県いわき市と新潟県新潟市を結び、広域交流の支援並びに沿線市町村の連携強化を図る幹線道路である。 平バイパスは、いわき市内における国道49号の交通混雑の解消及び常磐自動車道いわき中央ICへのアクセス強化等を目的とした事業である。 当道路の整備により、交通混雑が解消されるとともに、第三次救急医療施設への速達性向上や福島県中通り地方等との地域間交流の促進が図られる。					
S56年度事業化 S55年度都市計画決定 S58年度用地着手 S58年度工事着手					
全体事業費 420億円 事業進捗率 87% 供用済延長 4.0km					
計画交通量 24,000台/日					
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 1.5</td> <td style="text-align: center;"> 総費用 (残事業)/ (事業全体) 54億円/721億円 (事業費 : 46億円/692億円) (維持管理費 : 8億円/29億円) </td> <td style="text-align: center;"> 総便益 (残事業)/ (事業全体) 80億円/932億円 (走行時間短縮便益 : 73億円/817億円) (走行経費減少便益 : -2億円/68億円) (交通事故減少便益 : 10億円/46億円) </td> </tr> </table>	B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 1.5	総費用 (残事業)/ (事業全体) 54億円/721億円 (事業費 : 46億円/692億円) (維持管理費 : 8億円/29億円)	総便益 (残事業)/ (事業全体) 80億円/932億円 (走行時間短縮便益 : 73億円/817億円) (走行経費減少便益 : -2億円/68億円) (交通事故減少便益 : 10億円/46億円)	基準年 平成22年
B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 1.5	総費用 (残事業)/ (事業全体) 54億円/721億円 (事業費 : 46億円/692億円) (維持管理費 : 8億円/29億円)	総便益 (残事業)/ (事業全体) 80億円/932億円 (走行時間短縮便益 : 73億円/817億円) (走行経費減少便益 : -2億円/68億円) (交通事故減少便益 : 10億円/46億円)			
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 【残事業】 交通量変動 : B/C=1.7(交通量 +10%) B/C=1.2(交通量 -10%) 事業費変動 : B/C=1.4(事業費 +10%) B/C=1.6(事業費 -10%) 事業期間変動 : B/C=1.4(事業期間 +20%) B/C=1.5(事業期間 -20%)					
事業の効果等 ①交通混雑の緩和 ・現在2車線の事業中区间では交通容量の不足から渋滞が発生し、速度低下が生じている。 ・事業中区间の4車線化により、交通容量が確保され、現況の混雑緩和が見込まれる。 ②第三次医療機関への速達性向上 ・平バイパスの沿線には、浜通り地方で唯一の第三次医療機関である磐城共立病院が立地する。 ・現在2車線区間では、混雑による速度低下に加え、2車線により追い越しができないことから、救急搬送時の安定性・速達性が確保されていない状況にある。 ・事業中区间の4車線化により、現況の混雑緩和とともに、多車線化により安定した救急搬送が実現する。 ・これにより、いわき市南東部の小名浜地区や勿来地区からの搬送時間が9分短縮することが見込まれる。					
関係する地方公共団体等の意見 平バイパスは、いわき市内における国道49号の交通混雑の解消及び常磐自動車道いわき中央ICへのアクセス強化、第三次救急医療施設への速達性向上等が期待されており、いわき市長をはじめとする首長で構成される福島県浜通り地方開発整備促進協議会より早期整備の要望（平成22年11月15日）を受けている他、多くの団体から同様の要望を受けている。 県知事の意見：対応方針（原案）については、異議ありません。なお、更なるコスト縮減など、総事業費の抑制に努めてください。					
事業評価監視委員会の意見 対応方針（原案）どおり「継続」が妥当である。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 事業進捗率87%、うち用地進捗率100%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 事業進捗に係る問題はない。早期の供用を目指す。					
施設の構造や工法の変更等 ・橋長の見直し（橋脚1基削減）によるコスト縮減 ・再生アスファルト合材及び再生砕石の利用 ・橋梁の支承構造の検討					

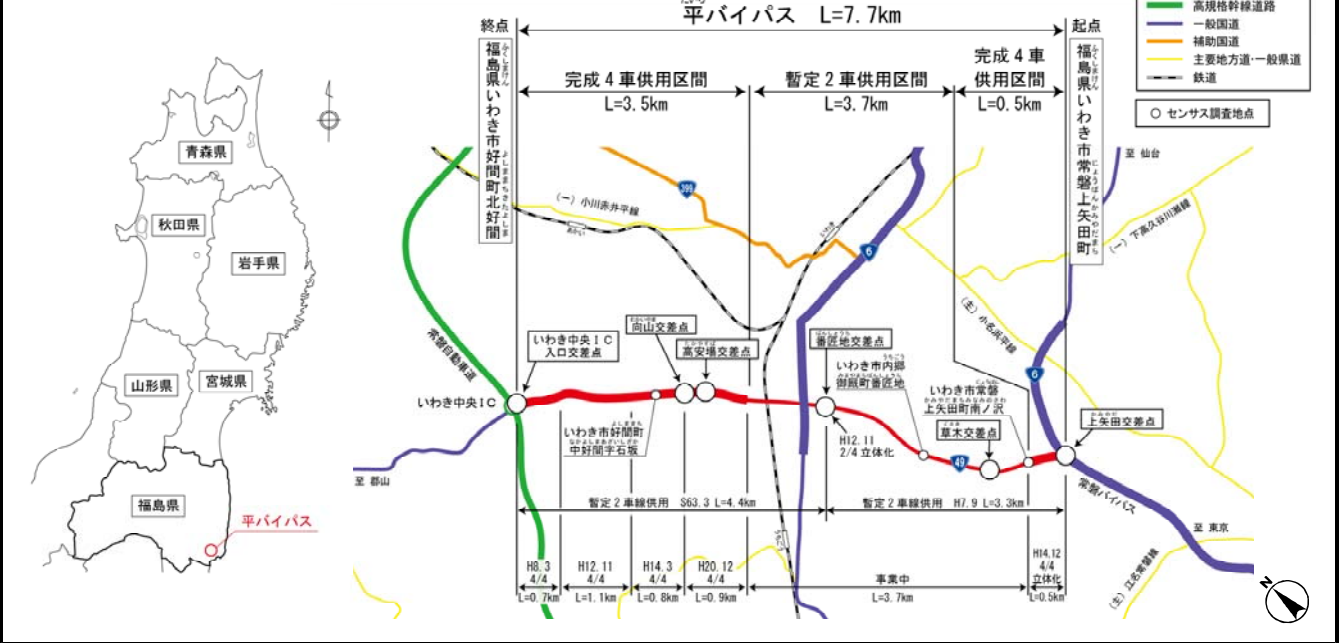
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。